

平和の思いを胸に一歩ずつ



核兵器の廃絶めざし 国民平和大行進が大阪府下を縦断

核兵器のない世界をめざし、東京から広島までリレーで行進する「国民平和大行進」が6月30日から7月7日にかけて大阪府下を縦断しました。各地で首長から激励のメッセージが寄せられたり、地元のケーブルラジオから取材を受けるなど、核兵器廃絶への支持と共感が広がりました。5月のNPT再検討会議では「核兵器のない世界の平和と安全」を追求することが確認されました。8月に広島・長崎で開かれる2010年原水爆禁止世界大会の成功へ、大阪から多くの代表団を送りましょう。



「なんで?」と疑問を持つ ことを、大切にしてほしい

箕面公園昆虫館 館長

久留飛 克明さん

(大阪府職労)



子どもたちの
昆虫嫌いをなくしたい

「昆虫は人間にとって、一番身近なところで生活している生き物です。人間が生活している環境を理解して、生活を豊かなものにする

「身近な生き物に興味を持って、生きることや命の意味を考えてほしい」と語る久留飛さん



緑深い箕面公園にある昆虫館大阪府直営の施設です館内にある温室では、20種類以上の蝶を身近に見ることが

ためにも、子どもたちの昆虫嫌いをなくすことが大事だと考えています」

最近、「昆虫嫌い」の子どもが増えているといえます。子どもだけではなく、昆虫館の催しで、子どもたちからアンケートを集めたところ、7割が「お母さんは昆虫が嫌いだ」と答えたそうです。「昔と違って今は、生活で昆虫にふれる機会がなくなっています。住宅事情が変わり、家の中に虫が入ってくることもありません。害虫駆除を宣伝するテレビの影響もあるでしょう。人間と昆虫が共存していることを、身近に感じられる場所が必要なんです」

移動教室、イベントで昆虫とふれあう場を
昆虫館には年間約80の学校が遠足で訪れます。昆虫館から学校に出かける「移動教室」にも大阪府

下の小学校を中心に年間約50校で取り組んでいます。「せめて教科書に昆虫が登場する小学校3年生まで、子どもたちには昆虫嫌いにならず、興味を持てるようになってほしいです」

土曜、日曜には、普段体験できない「昆虫観察会」や昆虫を題材にした工作教室など、親子で昆虫に親しめるように様々なイベントを工夫して催しています。「子どもたちには、昆虫と接して『なんで?』と、いろんな疑問を持てるようになってほしい。『昆虫はなんで足が6本なの?』『カブトムシのオスになんでツノがあるの?』など、すすんで疑問や興味をもつことが、すべての勉強にも通じると思っています」

標本だけでなく
生きたメッセージを

大阪府の環境衛生監視員として公衆衛生の仕事に長年携わり、昆虫館の館長に就任して9年。「ホテルはいつ頃から見られませんか?」「チョウが羽化に失敗したのですが…」など、府民から寄せられる様々な問い合わせや、相談にも応じています。大阪の人気テレビ番組にも昆虫がテーマになるたびに、しばしば登場する久留飛さん。

「昆虫館は、学校教育を補完する大事な役割を担っています。標本だけでなく、生きた昆虫たちからのメッセージを伝えたいですね」